

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102962		
法人名	有限会社 徳藤		
事業所名	グループホーム マイ・ライフ		
所在地	岐阜県岐阜市下西郷4丁目80番地4 (電話) 058-293-0817		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月2日	評価確定日	平成20年7月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心からやや離れた田園地帯の広大な敷地にホームが建っている。代表者は福祉の専門ではないが、既成概念に捉われず利用者を心から大切に作る姿勢と情熱は、施設長と職員にそのまま伝わっており、理念の「私たちにできること」は何なのかを職員間で常に話し合っている。そのためか、利用者は自分の思いや要望を表出しやすく、それぞれが自分の役割分担に楽しみを持ち、生き生きと生活している。看取りは日常のケアの延長線上という代表者と施設長の考えの元、24時間体制の医師とも連携し、既に1人の方の看取りを行った。その貴重な体験は、全職員の心にも響き、日々のケアへと活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善課題であった「職員研修の機会」「重度化終末期の家族向けマニュアル」「災害時の書面」「栄養バランスの検証」などは、職員間で何度も話し合いを繰り返して改善し、日々のケアと平行して意欲的に取り組み、努力の跡が見られた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	②	施設長とケアマネジャーが自己評価の基盤を作成し、全職員の意見を加えてまとめ上げた。自己評価と外部評価を通し、さらにホームの質の向上に繋がりたいという施設長の思いは全職員にも十分伝わっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2ヶ月に1回定期的に行われ、自治会・民生委員・老人クラブ・家族代表・地域包括支援センターなど多くの参加があり、ホームの紹介・行事予定、地域への協力要請など種々の意見交流を活発に行っている。家族や住民にも参加しやすい配慮があるが、行政担当者の参加機会が少ない。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の意見を大切に受けとめ、その思いを強く持つに施設長と職員は、家族の訪問時をとらえ聞き取りを行っている。設置してある苦情箱にはほとんど苦情が入っていないという現状であるが、これについては即職員間で話し合っけて検討を計画している。毎月のホーム便りには四季おりおりの行事に参加している利用者の笑顔の写真も載せるなど、家族との心の交わりに役立っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入し、役員会には施設長も出席しており、また、地域内の掃除には利用者と職員が参加するなどの地道な努力により、徐々にホームの存在が知られるようになった。ホームで飼っている2匹の犬と共に散歩では地域から声をかけられたり、ホームまで採れた野菜を持参してくれる住民など次第に地域との交流の輪が自然に広がっている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 19 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	9,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合償却の有無	無(3ヶ月未満半額返還)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 2 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 72 歳	最高	87 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かさい内科クリニック・平野総合病院・本荘歯科
---------	------------------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着を明確に示す言葉は見られないが、「普通に暮らす大切さと1人ひとりを大切に」というホーム開所当時の基本理念に沿って取り組みが着々と進められ、「私たちにできること」という理念も掲げている。	○	さらには、地域性を重視したホームの運営をめざすためにも、代表者・施設長・職員と話し合いを重ね「地域性」を理念に盛り込み、常に理念に立ち戻れるよう考慮されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念を伝え、代表者と施設長の思いに共感した職員が日々のケアを支えている。地域に密着した場所作りとして、開かれたホーム作りを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の役員会にも参加し、ホームの内容等を紹介したり、地域の回覧板にホーム便りをはさみ、回覧している。地域のごみゼロ運動・排水溝掃除などには利用者と共に参加し、利用者が地域に住みやすい環境作りの確保に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホーム全体のふり返りでもあることから、施設長とケアマネジャーが基盤を作り、全職員からの意見を加えまとめ上げたものである。前回の改善課題に関しては、全職員と話し合い、即できることから対応するなど速やかに行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に行い、自治会・民生委員・老人クラブ・家族代表・地域包括支援センター職員など多くの参加がある。災害時の課題やホームの現状報告を通し意見の収集を行い、サービスの向上に繋げている。毎回テーマを設け勉強会的なことも行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の日時は知らせているものの、家族・自治会・住民の都合に合わせるためか、行政側の出席は少ない。ホームから行政へは相談事や事務的な相談等の働きかけを行っている。	○	市の担当者に会議の報告や課題等、また、ホームからの要望などを積極的に働きかけ、地域高齢者介護の課題解決に向けた協働の取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問する家族が多く、その都度、柔軟に施設長・職員が利用者の様子を報告したり家族の意見を聞き取っている。毎月のホーム便りには行事を楽しんでいる利用者の写真も載せ、季節に合わせた生活ぶりを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問頻度が高く、頻繁に意見交換を行っている。苦情箱を玄関に設置しており、積極的に家族からの意見と希望の吸い上げに努めている。	○	家族アンケートの声では「やや満足」が多く将来的に「不満」へと発展する兆候も考えられる。ホーム側による家族アンケート実施や外部の苦情窓口を加える等さらなる努力と工夫の継続が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所より4年間で施設長・職員の交代は1回のみであり、代表者の熱い思いを汲んだ開所以来の職員が日々ケアを支えている。新人の職員には、ゲームや遊びを通して利用者の特性をつかめるようアドバイスをするなど、施設長はさりげない指導と育成を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、段階別または希望に沿って勤務シフトを調整するなど積極的に参加を勧めている。研修後の報告は、月に2回行う職員会議で行い、全職員で共有と周知することにより、職員全体の質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入している。施設長は研修等で知り合った他事業所と連絡や情報交換を行っている。	○	施設長中心になりがちな事項であるが情熱を持った代表者の力も借り、形式的・表面的でなく、地域の同業者と勉強会や相互訪問を通じて交流し、質の向上や次の展開へと繋がるよう、今後の取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2日～4日程度の体験入居は利用しやすい費用で提供している。事前に行われるアセスメントやヒヤリングから利用者の生活歴や人生の歩みを詳しく聞き取り、利用が円滑に開始できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設長と職員は利用者のやる気をそがないよう、手を出さないケアを心がけ、畑・庭の花手入れ・カレンダーめくり等おのおのが好きなことを自発的に行えるよう支援している。利用者同士で声をかけ合い、積極的に家事に取り組み、職員は人生の先輩から教えてもらうという姿勢で取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動から職員が拾い上げた「利用者の気になる一言」や「利用者の要望と好み」なども個別表に記入し、職員間で共有しケアに活かしている。起床時間・就寝時間も本人達に任せ、極めて自由度の高い支援体制になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の様子は1時間毎に把握し、記載されている。定期的なサービス担当者会議において、家族の要望や意見を中心に、職員の意見も取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、急変時や必要時に随時見直しを行っている。職員会議では、利用者や家族の思い・意向などを話し合い、現状に即した介護計画を作成し、家族の署名・押印などで同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診は基本的に家族で行われているが、希望があれば病院への通院介助もホームが行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にそれぞれの希望を聞いてホームの提携医が主治医となり、月2回の往診の他、24時間連絡可能な体制をとっている。提携以外の歯科を希望する利用者は家族が受診に同行している。入院に関しても総合病院との医療連携体制が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化と終末期は日常のケアの延長線上にあると考える代表者と施設長の思いにより、過去に1名の看取りを行った。入居時に家族も交えて確認書の記入や説明を行い、意向に沿った日々のケアを行っている。	○	看取りは行わないというホームが多い中、自然な形で家族と職員で最後を看取るという姿勢には目を見張るものがある。今後は特に、馴染んだ人との死別に直接タッチする現場職員の精神的なサポートに取り組まれない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域に配布するホーム便りの写真は、利用者から全体風景に替えるなどプライバシーに配慮している。常に、利用者の歩く速度や、ゆったりとしたペースと時間に合わせ、さりげない声かけが行われており、利用者の尊厳を大切に心が感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、その時その時の利用者の気分や希望によって変更するなど柔軟に対応している。また、利用者自身がしたいことを自分で決められるよう支援しており、利用者のはのびのび・ゆったりとホームの暮らしをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備には利用者も参加し、刻み・テーブル拭き・ランチョンマット敷きなど、それぞれ得意なこと・できることを、職員と共に楽しみながら行っている。和やかな雰囲気の中、利用者とは職員は同じものを談笑しながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の好みにより毎日・週2日・週3日と柔軟に対応している。「お湯の入れ替えは勿体ない」と主張する利用者もおり、湯の入れ替えはさりげなく行うなど配慮している。入浴の順番はその日その時の表情から察し、入る順序を調節して行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップで廊下を掃除する人・畑仕事などの指導を職員にする人など、各々が役割や楽しみを自然に見出せるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	代表者の理解により職員の数が増えたことで、ほぼ毎日、天候に合わせた散歩が行えるようになった。散歩中に住民から声をかけられ野菜をもらうこともある。装いに気を使う人も多く、買い物は利用者全員の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を代表者・施設長・職員は深く認識しており、施錠はされていない。玄関から外に出て庭の草取りを行う人もおり、利用者本位の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した防災訓練を実施している。運営推進会議を通して地域へも働きかけ、協力的体制作りを図っている。感染症・緊急時対応マニュアルなども作成され、職員が常に確認できるように配慮している。	○	災害はいつ起こるか分からないということを想定し、職員が俊敏に行動できるよう日ごろの対応も重要であると考えられる。また、長期に渡った場合の受け入れ先・避難場所とその経路等、職員と家族も交えて話し合うなど考慮されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別記録表に毎日記録し、個々に必要な栄養や水分量が維持できる支援をしている。月に1回、カロリー計算の確認を行い、利用者の好みや健康に配慮した献立になっている。体調により、柔らかいおかゆにするなどの対応もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの広い窓からは畑の緑がまぶしいほどに広がり、昼食後、利用者は居室に戻らず輪投げを楽しんだり、テレビ前のソファで職員と会話をしながら過ごしている。廊下の端には1人になれる椅子も置かれ、1日を通して自分の過ごしたい所でホッとくつろげるような場所も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には名前と共に本人の写真も飾られ、利用者の好みの家具が持ち込まれている。ベッドやタンスは利用者によって置き場所が違い、ベッド下には家族が滑り止めマットを敷いたり、個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。